

新型コロナ ようやく見えたパンデミックの出口【動画解説】

安藤淳編集委員 2/3 日本経済新聞



<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCA021HV0S3A200C2000000/>

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類へ引き下げられることが決まり、パンデミックから3年を経て、感染対策に縛られない日常がようやく見えてきた。ただ、足元では米国などで急速に広がる派生型「XBB.1.5」や、インフルエンザとの同時流行など懸念材料もある。マスクを着けるか、外すかの「脱マスク」論争も続いている。新型コロナを巡る最新動向と当面の課題について、先端医療などが専門の安藤淳編集委員が解説する。

米国で急増！XBB.1.5は怖い？

ワクチン定期接種の見通しは

「脱マスク」は実現するか

5類移行で「窓開け」見直しも

インフルとの同時流行は

コロナ対策「緩和」効果の検証を

米国、年1回のコロナワクチン検討 インフルエンザ同様

2023年1月24日日本経済新聞

【ニューヨーク=吉田圭織】米食品医薬品局（FDA）は新型コロナウイルスのワクチン接種を年に1回、従来型と流行している変異型の2つに対応する2価ワクチンに一本化することを検討している。FDAが23日、近く開く第三者委員会に先立って発表した資料で明らかにした。

資料でFDAは新型コロナが変異を続けているため、毎年更新が必要だと指摘した。大半の人についてFDAはインフルエンザの予防接種と同様、年に1度の接種をすることを提案している。高齢者や免疫不全者などは2回の接種、過去に1回しかワクチンを接種していな

い幼児は2回の接種を提案した。

接種時期については、感染が広がりやすい冬場に備えて9月からワクチン接種をはじめ

ことを提案した。これに先立ち、春には対象の変異型を決めることが望ましいとした。FDAは26日、今後の新型コロナワクチン接種の方針を審議する第三者委員会を開く。この委員会に出席した外部有識者の投票結果を踏まえてFDAが最終決断をする。

現在、FDAが利用を提案しているような2価ワクチンを提供しているのは米モデルナと米ファイザーだけだ。これらのワクチンは従来型のコロナウイルスと「BA.4」と「BA.5」のオミクロン派生型の双方に対応している。

一方、米国では新たな派生型「XBB.1.5」が急拡大している。米疾病対策センター（CDC）の推計によると、「XBB.1.5」の感染割合は49.1%に上り、いま最も流行している変異型となった。現在あるワクチンは「XBB.1.5」に対応していない。